



2 段構えの化学実験室

ば、理科離れが叫ばれて久しくなります。しかし、理科の強みは自然が対象であることと実験や観察はそれぞれのレベルで深めていくことができるということです。そこで、7年生（中学1年生）の授業は少人数制を活用して大胆な体験型を打ち出しています。次の文章は秋学期の成績と一緒に送られた授業紹介の一節です。

「この授業は自然科学に対する興味や関心を引き出し、理科が大好きになってもらうことを目標にしています。そのために教科書にはこだわらず、基礎から徹底的に体験していく方法をとっています。初めにひとり一台の顕微鏡を自由に使いながら取り扱いを学び、いろいろなものを観察しました。今学期の最後近くの授業では、未知の物質を知るための融点測定をしましたが、まず10月中旬に、マッチのすり方の練習から始めました。ガスバーナーを使いこなせるようになるまで使い、ガラス細工でいろいろなものを

作りました。そして、ガラスの極細試験管を自分で作り、そこに試料を入れて融点を測定する実験をしました。事前に用意された器具やマニュアルに従うのではなく、自分で準備し、完結させて得られる達成感と自信を重視しています。みんな熱心に、しかも楽しみながら取り組みました。ご家庭でも是非レポートのファイルを見ながら何をしていたかを聞いてあげてください。」

その後も実験や観察を多く取り入れながら9年生の秋学期までに中学理科の範囲を終えます。選択によっては、9年生の最後の学期（冬学期）に高校の生物や化学の内容を始めることもできるようになっています。

千里国際の生徒達は英語が得意なだけでなく、英語を使って何をしようかということを考えています。

千里国際学園 中部部・高等部  
 〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16  
 電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055  
 HP:www.senri.ed.jp, E-mail:admissions@senri.ed.jp

### 真砂 和典（まさご かずのり）

千里国際学園 理科教員

私自身は、本校の生徒とは対照的に、英語が苦手という理由で理系を志望した不謹慎な高校生でした。そのせいで今でも英語に苦しめられています。また、母校がこの数年でなくなってしまうという、教育界の荒波をまともにうけた者でもあります。出身の東京都立九段高校は千代田区立の中等教育学校に、また東京都立大学は移転、統合してしまいました。しかし、母校がないというもまた、すっきりした気分でもあります。学歴にしがみついで生きていくのはいやだし、貴重な学生時代は私の中に厳然として生き続けているからです。



千里での理科教育の紹介です。恵まれた施設で少人数での指導、更に、生徒の実態に合わせたカリキュラムを、教員が手作りで指導している様子が良くわかります。

実は、私は理系の教育を受けたあと、教育に関わる仕事につきました。その経験から、国際性豊かなエンジニアや理系に強い弁護士など、既存の学問領域を横断する人物が本当に必要とされていると信じています。

その若者を送り出す、大きな可能性を秘めた学校のひとつが千里国際です。母校がなくなり無所属となった真砂先生、千里で新しい伝統を作ってください。そして、それを何度でも紹介してください。よろしく。